

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700907		
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所		
事業所名	旭グループホーム		
所在地	香川県三豊市高瀬町上高瀬5388番地262		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町受理日	平成21年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771700907&SCD=320&PCD=37
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“幸福”であると思いつづけられる空間づくりへのこだわりは、色あせることはない。現在特に力をいれていることは、声かけの言葉による幸福の実感を提供できるようにスタッフ一同心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

静かな山間部に建てられた、平屋建て1ユニットのアットホームな施設である。すぐ横の自家菜園では、野菜の収穫やコスモスの花見等、土に触れ季節の移ろいを感じることができる。ホームで飼っている猫達に出迎えられ玄関を入ると、明るい自然光が射し込んでくる。清掃の行き届いた施設は不快な臭いもなく、季節の花や絵、利用者の手作り作品等が飾られている。特に食事は、職員の知恵を活かした季節感ある手料理が振る舞われ、利用者の五感への刺激となっている。口腔ケアに力を入れていることや、落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと時間をかけて食べられているからか、利用者は誤嚥もなく、ほぼ残さずに食べられている様子がうかがえた。当施設は開設7年目を迎える。職員の経験年数が長く、定着率も高いことは、職員間だけでなく、利用者・家族とのなじみの関係も深まり、パンフレットにある『やさしさにつつまれ、安心して過ごせる あったかな“我が家”』が実践できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で考えた理念の文言を毎朝胆に銘ずるべく、唱和し、共有し実践している。	一昨年、管理者・職員で話し合い「1. ご利用者皆様が旭の家族として楽しく幸福な日々が送れるようお手伝いします。2. 地域の方々とともに豊かで活力あるグループホームを目指します。」を事業所独自の理念として掲げ、「幸福」であると想いつづけられる空間づくりに、スタッフ一同が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃時などに参加し、作業を共に行うようにしている。また地域の催しには、利用者様と共に参加し、協力している。	地域との繋がりを重視し、自治会の清掃に参加したり、「旭ふれあい祭り」に近隣の方々を招くなどしている。また、ご近所からは野菜の差し入れがあったり、ボランティアによる習字教室や動物の訪問など、双方向的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談相手を務めている。相談者の方々は、口コミで、直接または電話にて依頼があるので、応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での各部門の方々より意見をいただき、その意見等を職員会議で話し合い反映している。	2か月に1回、地域包括支援センター・民生委員・家族の代表・職員(主に管理者)の参加により開催している。ホームの現状や取り組みについての報告を行い、参加者からいただいた提案はサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は外部の方から意見をいただける機会であり、地域交流の場でもある。ホームの現状や取り組みについて理解を得たり、双方向的な協力関係を築いていくうえでも、更に参加メンバーの輪を拡げ、地域交流の足がかりとしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課へ気軽に足を運び、または電話にて相談しながら取り組んでいる。	2か月ごとの運営推進会議に地域包括支援センターの担当者の参加を得て、意見交換を行い、情報の共有がなされている。また、市介護保険課とも相談やアドバイスを受けるなどの交流が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて検討している。現状においては必要はない。	日中は、玄関の施錠はしていない。身体拘束もみられない。身体拘束防止委員会では、身体の拘束についてはもちろん、言葉の拘束に関しても積極的に職員間での話し合いの場を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在声かけに使用する言葉の在り方を一丸となって模索し、自施設研修のテーマとして取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居されていた利用者が制度を活用しており、支援を行った。今後も受け入れるつもりである。また成年後見制度の研修に参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間を取り、質疑応答を納得いくまで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、また家族会の時に意見を聴取するなど運営に反映している。	玄関に意見箱が設置されている。家族会があり、年4回程度事業所の行事に合わせた集まりの機会がある。運営推進会議には、家族の代表も出席されている。また、家族の方々はよく面会に来られるので、そのつど、意見・要望等を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で機会を設けている。また日常的に各職員の言葉を傾聴している。	経験年数の長い職員が多く、職員の定着率も高いことより、働きやすい職場であることや管理者・職員間の人間関係の良いことがうかがえる。管理者は、月1回の職員会議や個別懇談を通して職員の意見や要望の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの想いを聞き取り、共により良くするためのミーティングを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマによって、外部から講師を迎えての自施設内研修や、外部研修の参加促進のため研修費を施設側にて負担し、奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営スタッフの一員として、交流する同業者の会に参加し、サービスの資質や向上にむけて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に気軽に話し相手をし、本人の想いを把握し、本人の望む暮らしができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と密に話し合い、安心していただけるようアドバイスしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向の聞き取りに努め、納得していただけるよう働きかける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を多く持ち、親近感を持つよう協働作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いがみ合っていた嫁姑がゆとりを持った良い関係になれたと、当方の仲介を喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪しやすいスペースづくりに努めている。親類、縁者、隣人等も次々来訪されている。	気軽に訪ねやすい雰囲気から、家族の他に、近所の友人や親類等の訪問も多い。利用者から電話の希望があれば、職員がとりついでいる。また、地域行事への参加や近隣へのドライブなどを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話し相手の仲介とか、共同でできることを常に提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に至っても、なるべく訪問し、できるだけ支えになれるよう話し相手、相談相手に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	とにかく本人と話し合い、本人の想いを間違いなく把握し、反映できるようにしている。	日勤者の人数が多く、一人ひとりの利用者とゆっくり関わる時間をとることで、日常の会話やアイコンタクトを通して、個々の想いを見い出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族とよく話し合い、今までの生活を把握し、熟知しておくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り等により、把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、または家族の想いを常日頃の談笑の中から把握しておき、スタッフ全員で考えている。	担当制をとっているが、職員間でも意見交換を行いながら、4人のケアマネジャーがそれぞれきめ細やかな計画を立案している。立案に際しては、家族にも分かりやすく説明し、内容に関する話し合いができています。定期的(3か月ごと)及び状態変化時は随時見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの個別記録を密にし、情報の共有に努め、常に見直しへの配慮に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療系の利用に配慮し、また講師等を招き、習字の練習をする等、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署との連携により消防訓練や救急訓練をし、安全への努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護等の利用により、常に家族とも話し合い、希望を把握している。	認知症専門医の勤務している協力医療機関との連携はよく、必要時の往診や訪問看護、入院等の協力を得られている。通院時は、職員が付き添い、家族にも必ず説明・報告を行っている。週1回歯科医の往診があり、利用者の口腔ケアには力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りは、口頭と記録により正確に伝達連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	三豊市西香川病院との連携が、とてもよくできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常々ご家族と話し合っているので、一人ひとりの方針は把握できている。また、三豊市西香川病院との連携もとれている。	日頃、本人との会話や家族との話し合いの中で、意向の把握に努めている。重度化した場合は、家族の協力を得ながら、ターミナルケアを行っている。ホームには、常勤の看護職員が3名おり、協力医療機関との連携もとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにのっとり、イメージトレーニングを常に奨励し、指導員を迎えて訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自のマニュアルにより、訓練等を行っている。自治会、近隣とも常に交流し、話し合っている。	年1回の火災・救急訓練を実施している。事務長を中心に、職員会議や運営推進会議等でも話し合い、備蓄の点検・補充を順次行っているところである。	諸マニュアル綴りの中に、ホームの防災マニュアルもあったが、再度内容を検討したうえで、個別にファイルを作成し、職員への周知徹底を図っていただきたい。また、今後は夜間の想定訓練の取り組みも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在、一丸となって取り組んでいる“言葉かけ”をミーティングしながら良くなってきている。	職員の定着率がよく、なじみの関係となっても、馴れ合いになり利用者のプライバシーや尊厳を傷つけることのないよう、態度や言動には職員同士でも話し合い、気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけによる働きかけの効果を考慮しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	とにかく想いを聞き出して、それにそって、一日が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と話し合いながら足りない所に手を貸し、おしゃれができるように一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何が食べたい」かの希望を常に把握し、下ごしらえを共に行い、楽しく過ごしている。	食材は、職員が毎朝買い出しに行き、ホームの台所で調理している。ご近所ですぐに採れた野菜や自家菜園で採れたものが並ぶこともよくある。枝豆の皮むきなどの下ごしらえは、利用者と共同作業で行うこともある。利用者と職員は同じテーブルに着き、ゆっくりと落ち着いた雰囲気の中、ほとんど残さず食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に各人の栄養状態、水分摂取状態のデータをスタッフ一同が把握し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自施設研修のテーマとして取り組んで以来、十分できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導における時間のタイミング、声かけの言葉選びに配慮しながら、自立できるよう支援している。	「ポータブルトイレを置かならば、自室にトイレがあった方が良い。」との開設者の考えにより、各居室にトイレ・洗面台が備え付けられ、利用者は、自室で職員の見守り、または介助によって排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に配慮した食事の工夫や、腹筋を使うような運動をさりげなく交えるなどして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉水の導入と毎日入浴できるよう計らい、個々の想いを尊重しながら入浴介助し楽しんでいただいている。	基本的には、2日に1回の入浴スケジュールを組んでいるが、希望者には臨機応変に対応している。温泉入浴や流水浴槽の設備もある。寝たきりの方に対してもリクライニングタイプのシャワーシートを使い、入浴介助支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音、光への配慮は細かくしている。安全の確認もしっかり行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録を正確に行い、責任をもって申し送りを行っている。症状の変化などの情報共有を重視した支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性をしっかりと把握し、利用者様に、歌のリード、習字の作品づくり、野菜づくりのアドバイスなどを行っていただき支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援には力を入れ配慮している。可能な所へは、積極的にドライブに出かけている。	ホーム周辺を散歩したり、外に日よけテントを張って、草花を観ながら食事を楽しんだり、自家菜園の収穫を利用者と共同で行っている。季節ごとの花見や祭りなどのドライブへも積極的に出かけ、外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現実的には無理であるが、一緒に買い物をすることはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中継ぎをして、ご家族と電話で話し合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示、展示物、花や植物などがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	畳コーナーや廊下にはソファが置かれ、外玄関にはベンチもあり一人になれるスペースが確保されている。また、ホームでは猫を3匹飼っており、利用者に可愛がられ、癒しとなっている。ホーム内は清掃が行き届き、不快な臭いもなく、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の片隅、玄関ホール等に椅子とテーブルを設置し、談笑または一人で居られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と家族が協力し、本人の好みに合わせて生花、絵画等をアレンジしている。	各居室には、トイレ・洗面台・ベッド・クローゼットが備え付けられている。テレビやタンスなど使い慣れた物が持ち込まれ、習字などの手作り作品や家族・ペットの写真が飾られ、その人らしい生活が送れるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助用品などを導入しながら、「できることは自分の力で」をモットーに支援している。		